

# 国立国会図書館



世界図書館紀行 ベルリン国立図書館・ドイツ国立図書館（ライプツィヒ館）  
占領期日本における華僑の出版物  
博士論文の現況と利用方法  
お答えします、図書館送信のギモンあれこれ Part 2

2016.2  
No. 658

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み/国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み/国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00		
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30		
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み/国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

## CONTENTS

## 02 『御仕置例類集』などに見る鼠小僧 その実像と虚像

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

## 04 世界図書館紀行 ベルリン国立図書館・ドイツ国立図書館(ライプツィヒ館)

## 12 占領期日本における華僑の出版物

## 18 博士論文の現況と利用方法

## 24 お答えします、図書館送信のギモンあれこれ Part 2

## 28 本屋にない本

○『広陵町の靴下百年史』

## 29 館内スコープ

「未来の職員」＝「過去の自分」と向き合う仕事です

## 30 NDL NEWS

- 中国国家図書館との第34回業務交流
- 平成27年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

## 31 お知らせ

- 中高生のための「調べものの部屋」開室
- 「児童書ギャラリー」開室
- 子どものための絵本と音楽の会
- 本の万華鏡（第21回）「大豆・粒よりマメ知識」
- 関西館小展示（第19回）「おそれと折りーまじないのかたちー」
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

国立国会図書館の蔵書から

『御仕置例類集』などに見る鼠小僧 その実像と虚像

川本 勉

『御仕置例類集』

明和9-天保10

写 273冊

(旧幕府引継書の内)

<請求記号 817-3 >

※全冊、国立国会図書館デジタルコレクションでご覧になれます。

今回の「今月の一冊」では、大名や旗本の屋敷奥向を中心に盗みを重ねた大盗賊、鼠小僧次郎吉の実像と虚像に迫ってみたい。

次郎吉は天保3(1832)年5月4日、浜町の松平宮内少輔の屋敷に忍び込んだ所を家臣に取り押さえられ、翌5日に北町奉行同心の大八木七兵衛に引き渡され「門前捕り」となった。『南北姓名帳』(写真1)には、老練な定廻り同心だった七兵衛を始め、次郎吉の吟味を担当した与力、同心たちの名前や職歴が記載されている。剛直で私曲のないことで知られた北町奉行、榊原主計頭忠之らが次郎吉を取り調べ、盗んだ金額、盗み先を記した『鼠小僧賊計帳』(写真2)を、同年5月10日付で老中に差し出した。評定所によって編纂された刑事事件の先例集である『御仕置例類集』の「盗賊之部」に収録されている御仕置案(写真3)には、次郎吉は文政6(1823)年から、記憶にあるもので98か所、122回、武家屋敷の女性たちが居住する長局や奥向等へ忍び入り、錠前をこじ開けたり、土蔵の戸を鋸にて挽き切り、およそ金3,121両などを盗み、その大半を酒食、遊興、博奕に使い果たした罪により、「不届至極ニ付引廻之上獄門」に処すと記されている。主計頭は、坊主清之助、稲葉小僧新助ら8人の盗賊たちの御仕置例を参照して御仕置案を作成し、老中松平周防守康任の決裁を受けた。次郎吉は捕縛から100余日を経た8月19日、小伝馬町の牢屋敷内で斬首され、その首は小塚原の獄門台に晒された後、本所の回向院に葬られた。享年36歳。法名は「教覚速善居士」。剣術家、藤川整齋の『天保雜記』には、「天力下ふるきためしはしら波の身こそ鼠とあらわれにけり」と辞世が

記されている。

次郎吉の自白調書である『鼠賊白状記』(国立公文書館所蔵)や松浦静山の『甲子夜話』は、その実像を知る上で極めて重要な資料である。静山は、次郎吉の顔を平たく丸顔で、肉付きよく、色白くうすあばたがあり、目は小さくて職人体であったと記している。また、幕臣、宮崎成身の『視聽草』を始め、書肆の藤岡屋由蔵や山城屋忠兵衛が残した『藤岡屋日記』、『文鳳堂雜纂』などの見聞記類にも、次郎吉の御仕置案などが筆写されている。これらは北町奉行所の役人衆から漏れた情報が坊間に流れたもので、鼠小僧に対する民衆の関心の高さがよくわかり、とても興味深い。

安政4(1857)年、白浪作家として知られた河竹黙阿弥は、鼠小僧を題材に『鼠小紋東君新形』(写真4)を書く、市村座で白浪役者といわれた四代目市川小團次が、主人公の稲葉幸蔵(鼠小僧)を演じ好評を博し、錦絵(写真5)や合巻本(柳水亭種清作 歌川国貞画)にもなった。歌舞伎では、問注所の強権的な取り調べに反発した幸蔵が逃走し幕となる。「泥棒伯圓」と異名をとった講談師の二代目松林伯圓は、『天保怪鼠傳』(写真6)などで、江戸っ子で勇み肌の鼠小僧像を作り上げた。さらに明治初期には『鼠小僧實記』や『鼠小僧白浪草紙』(写真7)といった虚説に満ちた実記・実録類が刊行され、苦しむ民を救う義賊像が普及した。史実と全く違うこの義賊像は、江戸学の泰斗、三田村鳶魚らにより鋭く批判されもしたが、そこには幕末明治の混沌とした世相の中、世直し、正義の味方を待ち望む庶民の願望をも感じ取れる。

(かわもと つとむ 利用者サービス部人文課)

<参考文献>

『鼠小僧白状記』横山勝行 著・刊 1997

渡辺保「黙阿弥の明治維新(7) <第1番目大話> 泥棒伯円、泥棒役者、泥棒作者一「鼠小僧」」『新潮』93(7) 1996.7 pp.326~336

中込重明「鼠小僧の実録と講談」『江戸文学』29 2003.11 pp.145~155



写真1 『南北姓名帳』5冊の内第3冊 北組与力同心姓名書  
 従文政十一子年至天保十亥年 (旧幕府引継書の内)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2548423/112>  
 「天保三壬辰年正月改北組姓名書」に「寛政四子七月より  
 四十一年勤 外見習一年 定廻り 大八木七兵衛 同五十七」と  
 記され、鼠小僧を門前捕りにした同心の名前が確認できる。



写真2 『鼠小僧賊計帳』巻頭 <請求記号 157-48>  
 「辰五月十日榊原主計頭役所差出 無宿異名次郎大夫事 入墨 次郎吉 俗=鼠小僧と申候 盜賊相当之  
 者」の後、盗んだ金額と盗み先の戸田采女正以下97家が記されている。

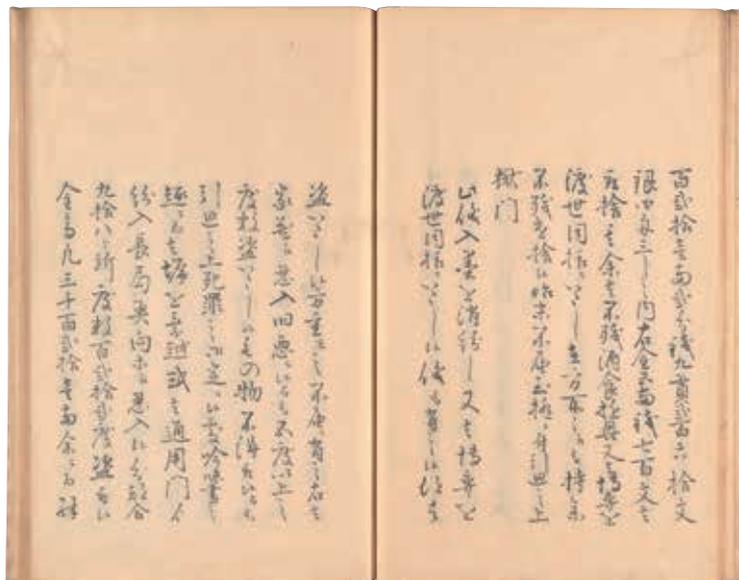


写真3 『御仕置例類集』  
 文政10-天保10 96冊  
 の内 [36] 乙 (第四輯)  
 二十六上 盜賊之部 〆  
 厚薄度数等=寄御仕  
 置輕重有之類 (旧幕府  
 引継書の内) 36丁表、  
 37丁裏~38丁表  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2550344/40>  
 「天保三辰年御渡 町奉行榊原主計頭向 一異名鼠小僧事 入墨次郎吉盗いたし候一件」とあり、鼠小僧の御仕置について、老中にお伺いを立てている。



写真4 『鼠小紋東君新形』第23冊 (劇場大帳40冊の内) 7丁裏~8丁表 <請求記号 114-77>  
 「サアガきの折から手くせがわるく人の物は我力物とぬすミはするがけふガ日迄邪非道な事はせず盗だ跡で其内ガ戸でもおろしや其金へ利足を付て返す心…」と鼠小僧を演じた小團次の名台詞が記されている。



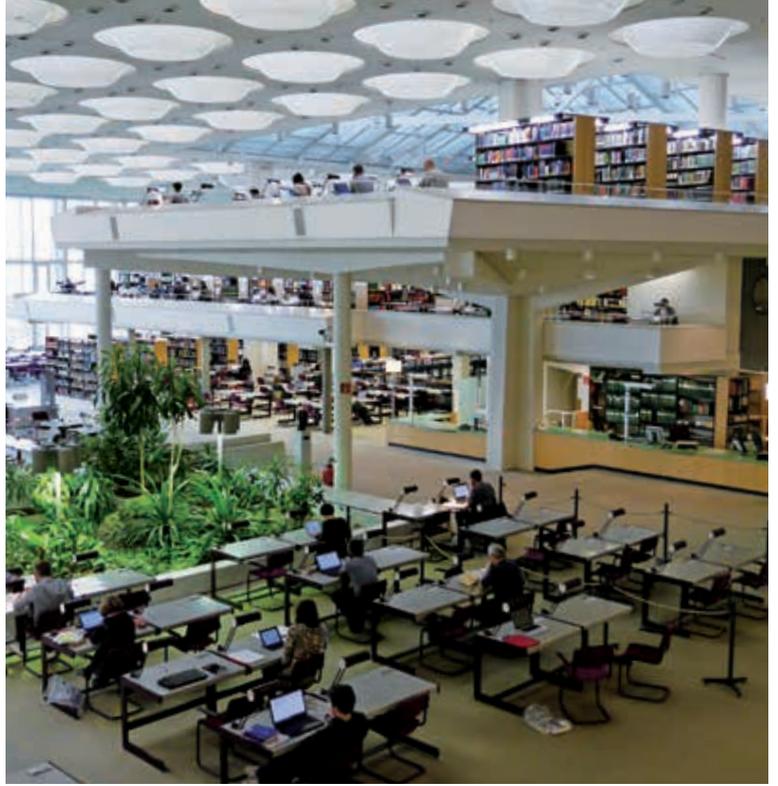
写真5 「踊形容外題畫 鼠小紋東君新形 桶の口の場」『俳優似顔東錦絵』の内 歌川豊国 画 1857 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1310928>  
 「盜賊稲葉幸藏 じつハ与惣兵へせがれ与吉とりて大ぜい」と記され、逃げる鼠小僧を捕獲する場面が描かれている。



写真6 『天保怪鼠傳』表紙 二代目松林伯圓講演 酒井昇造速記 1897~98 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/890600> (モノクロ)  
 白浪物を得意とした「泥棒へせがれ与吉とりて大ぜい」の代表作。庶民に親しまれた講談本の一つ。



写真7 『鼠小僧白浪草紙』表紙 [絵本] [5] 牧金の助編 1888 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/883541> (モノクロ)  
 ルビをふり随所に挿絵を施すなど、婦女子向けに読みやすくした実録本の一つ。



# 世界図書館紀行

ベルリン国立図書館

ドイツ国立図書館（ライプツィヒ館） 奥村 牧人



## ベルリン国立図書館 —歴史・機構・役割—

ベルリン中心部のブランデンブルク門（写真1）から東に向かって伸びる大通りがある。「菩提樹の下」を意味するウンター・デン・リンデン通りである。通り沿いには、ベルリン大聖堂（写真2）、国立歌劇場、フンボルト大学（写真3）といった主要な歴史的建造物が立ち並び、そのうちの1つにベルリン国立図書館ウンター・デン・リンデン館がある。ベルリン国立図書館は、このウンター・デン・リンデン館とポツダム通り館の2施設で業務を行うドイツ語圏最大の学術図書館である。現在は、ウンター・デン・リンデン館の改修工事に伴い、児童資料と新聞資料については、暫定的にウェストハーフェンにある施設でサービスを提供している。

ベルリン国立図書館の設立は古く、その前身は1661年のフリードリヒ・ヴィルヘルム大選帝侯が設置した宮廷図書室まで遡ることができる。1701年、図書室は選帝侯フリードリヒ3世のプロイセン王即位に伴い、州立図書館に改称され、1918年にはプロイセン州立図書館と改称した。第二次世界大戦後、ウンター・デン・リンデン館は東ドイツ管轄下に置かれたので、西ドイツにはポツダム通り館が新たに建設され、1978年に開館した。その後、冷戦の終焉とともに1992年に両館は統合し、ベルリン国立図書館という現在の名称となった。

ところで、同図書館は日本語文献においてベルリン「州立」図書館と訳されることがある。実際のところ、図書館の運営は、プロイセン文化財団という団体がやっている。プロイセン文化財団は、連邦法に基づき設置された団体であり、旧プロイセン国の文化財の保存と管理のため、連邦政府および全国各州から補助を受けて運営されている。同財団の意

思決定を行う評議会は、連邦政府と16の州の代表により構成される。

同財団は、図書館のほか、ベルリン国立博物館群、機密国家公文書館、音楽研究所、イペロアメリカ研究所の運営も行っている。

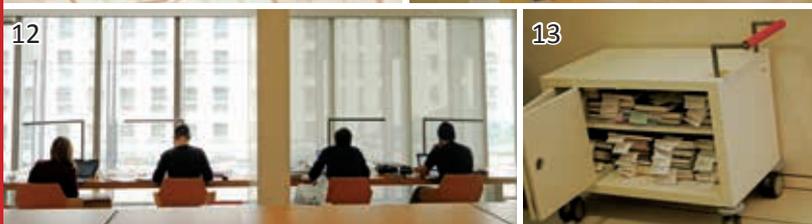
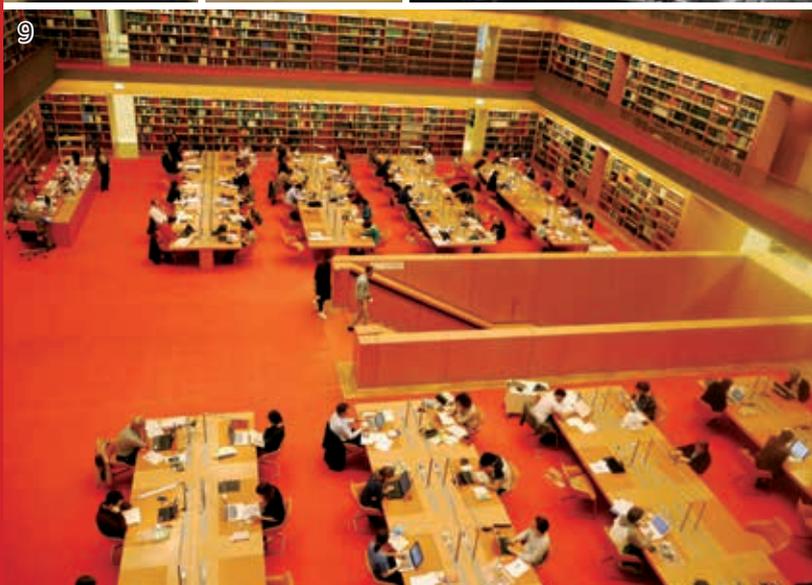
ベルリン国立図書館は、資料の収集業務において全国的な収集分担計画に基づく役割を担っていることでも知られる。同館は1871年から1912年までのドイツ語圏およびドイツ語の出版物を漏れなく収集することとされているほか、政府その他の公法上の機関が発行した資料の収集拠点でもあり、各国と官公庁資料の交換を行う、国際交換の機関としても位置付けられている。

## ウンター・デン・リンデン館

さて、ウンター・デン・リンデン館である。同館は、長さ170メートル、幅107メートルの重厚な趣を有する建物で、10年以上の工期を経て1914年に竣工した。2004年から全館的な改修工事が行われており、現在も継続中のため、利用者はウンター・デン・リンデン通りの正面入口ではなく、裏側にあるドロテーエン通りの入口からしか入館できない（写真4,5）。

建物に入り、案内カウンターやクロークを通り過ぎると、日本の図書館ではあまり見られないものが目に入る。利用料金の支払機で





ある(写真6)。ドイツでは、ベルリン国立図書館に限らず、閲覧室の利用が有料である公共図書館は珍しくない。ベルリン国立図書館の場合、利用料金は、年30ユーロまたは月12ユーロとなっている。担当者の話によると、徴収されたお金は、資料保存等のために使われているようだ。利用者カードを取得した後、多くの利用者は、閲覧室への入室前に資料受取カウンターに向かう(写真7)。自宅等から予約しておいた資料を受け取るためである。もちろん、来館後に資料請求を行うことはできるが、事前に予約しておくことで、利用者は有効に滞在時間を使うことができる。

ウンター・デン・リンデン館の中心的位置を占めるのが、2013年に開室した一般閲覧室である。かつてこの場所には、大英博物館の円形閲覧室や米国議会図書館の主閲覧室を



モデルとして作られた、堂々たる八角形のドーム型大閲覧室があった(写真8)。しかし、第二次世界大戦中の連合国軍の空爆により屋根が破壊されたため、雨ざらしの状態になり、その後、解体を余儀なくされた。

新閲覧室は、円形ではなく、幅30メートル、長さ35メートルの長方形である。室内は赤を基調としたデザインで、高さ36メートルの開放的な空間(写真9)に、4層にわたる250以上の席がある。天井からはアルミ製の飾りが吊るされ、閲覧室に彩りを与えている(写真10)。閲覧室の2層部分以上には、キャレルといわれる個人用閲覧席や研究用の個人席がある。そこでは窓に面した明るい場所での机の上に本やノートを広げて利用者が勉強していた(写真11, 12)。月5～10ユーロの席使用料にもかかわらず、利用希望者は多く、数か月待ちの状態とのことである。ところで、閲覧室での研究を支援する便利なアイテムがある。資料保管用ロッカーである(写真13)。ロッカーの利用には月5ユーロを負担しなければいけないが、これのおかげで来館ごとの資料請求は必要なくなり、多くの資料を常に席の近くに置いて、研究活動に集中できるというわけである。

ウンター・デン・リンデン館には、一般閲覧室のほか、貴重書・音楽資料閲覧室(写真14)と地図資料閲覧室(写真15)とがあり、2016年中の完了が見込まれる改装工事の後には、新たに児童資料や新聞資料を取り扱う閲覧室が開室予定である。

## ポツダム通り館

ウンター・デン・リンデン館からわずか3km足らずの距離にポツダム通り館がある。建物は、ベルリンフィルハーモニーのコンサートホールを手掛けたことで知られるハンス・

シャロウンによる設計である。建物は幅や高さ凹凸のある現代的なデザインで、重厚な歴史的建造物であるウンター・デン・リンデン館とはまた違った雰囲気を見せている(写真16)。外観の印象の違いを反映するかのようには、ウンター・デン・リンデン館が歴史的な資料を取り扱う研究図書館であるのに対し、ポツダム通り館は、20世紀以後の比較的新しく出版された資料を取り扱う研究・貸出図書館と位置付けられている。「貸出図書館」とあるとおり、同館の特徴の1つは、所蔵資料の貸出サービスである。利用者は、1956年以降に出版された図書資料を館外に持ち出して利用することができる。貸出専用カウンターは入館ゲートの外にあり、利用者は閲覧室に入らなくても受取ができるようになっている。資料は、カウンターで職員から受け取ってもよいし(写真17)、カウンター横の入口を通って取り置きスペースに行き、自分で直接持って来てもよい。自分で資料を持ち出す場合は、セルフの貸出機で手続きを済ませる必要がある(写真18)。

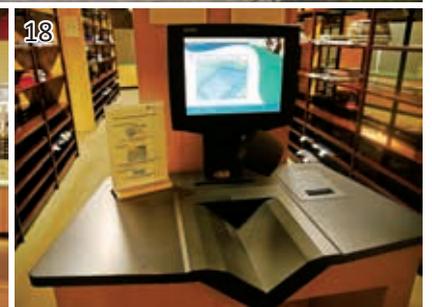
16



17



18





次に、閲覧室を見てみたい。利用者登録を済ませ、入館ゲートを通り抜けると、階段を上った右手あたりに館内利用資料の受取スペースがある。ここで、利用者は予約しておいた資料を棚から探し出し、資料を手に閲覧室に向かう。ポツダム通り館の閲覧室は、間仕切りの少ない広々とした空間である。総計900以上の席は、様々な場所に配置されているので、利用者はその中の気に入った席を使えばよい。さながら劇場の舞台を見下ろす観覧席のような閲覧席（写真19）、天井の高いロビーのようなスペース（写真20）は、コンサートホールを彷彿とさせる。また、館内の所々に、ランプ（写真21）、スタンドグラス（写真22,23）、壁面装飾（写真24）のような「芸術作品」があり、見るものの目を楽しませてくれる。

大閲覧室の脇の階段を上ると、オリエント、東アジア、東ヨーロッパといった特定の地域関係資料を取り扱う閲覧室（写真25）がある。これらの資料は、ポツダム通り館の特色あるコレクション資料群である。このほか、地図資料や手稿資料といった主題を扱う閲覧室がある。

## デジタル複製センター

ベルリン国立図書館は、貴重なコレクション資料のデジタル化にも力を入れている。デジタル化のための専門施設がウンター・デン・リンデン館内にあるが、そこでは資料保存の専門家が最新式の設備を使って作業を進めている（写真26,27）。著作権の保護期間が満了した資料については、利用者に対してデジタル複製サービスを行っており、ダウンロードやDVD等、電子媒体での提供を行っている。利用者からデジタル化の依頼があったものについては、そのままベルリン国立図書館のデジタルライブラリーに編入されることが多い。

## ドイツ国立図書館（ライプツィヒ館）

次の目的地は、ライプツィヒのドイツ国立図書館である。ライプツィヒ中央駅へは、ベルリン中央駅から高速鉄道ICEに乗り、約1時間で到着する。ライプツィヒは、ザクセン州に位置する人口約55万の商工業都市である。世界最古の日刊紙や岩波文庫の範となったことでも知られるレクラム文庫の創刊等、かつて印刷・製本業が隆盛を誇った街であり、国際的に有名な音楽の街でもある。バッハが27年間にわたり音楽監督を務めた聖トーマス教会、世界最古の市民階級オーケストラの根拠地であるゲヴァントハウス・コンサートホール（写真28）、ヨーロッパで3番目に古い歴史を持つ市民歌劇場（写真29）など、街のあちこちに音楽史跡が存在する。ドイツ国立図書館は、ライプツィヒ中央駅からトラム（路面電車）で10分ほどの距離にある。トラムは、途中、ライプツィヒ大学や市民歌劇場のある賑やかなアウグスト広場を通り抜けた後、徐々に静かな場所へとやってくる。

図書館は、トラムの駅の目の前にある。駅からは、新館の側面部分が大きく見えるため、にわかにドイツ国立図書館の建物とは気付かなかったが、道路を横切って建物の正面に回り込むと写真などで見慣れた外観が現れてきた（写真30）。建物の外観で特徴的なのが、2つの異なるスタイルの建物が並び立っていることである。片やルネサンス様式やアールヌーボー様式等の影響を受けた1916年竣工の華麗な建物、片や一面ガラス張りで見事な曲線を描く、2011年竣工の現代的な建物であるが、うまい具合に調和がとれている（写真31）。

メインエントランスでは、ドイツを代表する人物であるゲーテ、ゲーテンベルグ、ビスマルクの胸像が図書館を訪れる者を見下ろし

ている。閲覧室に入る前の公共スペースでは、所々にモザイク画、レリーフ、陶器などの芸術品が置かれている（写真32, 33）。ベルリン国立図書館と同じく、ドイツ国立図書館も閲覧室の利用のためには、利用者登録を行い、利用料金を支払う必要がある。利用料金は年42ユーロ、月18ユーロまたは2日で6ユーロ



と安くはないが、一方で、料金徴収の廃止についても検討されているようである。

利用者登録を終えて、まず利用者が入室するのが、本館の中心にあり、主閲覧室とも言われる人文資料閲覧室である。建物内で最も大きな閲覧室であるが、あまり広すぎず、落ち着いた雰囲気である(写真34)。天井が高く、2層にわたって書架が配置されている。ドイツ国立図書館の開架資料はフランクフルトにある施設も含めると13万点以上になるが、資料が破損したり、行方不明になったりすることはないそうだ。

本館1階にある閲覧室のうち、独自の性格を有する閲覧室が、ホロコースト資料閲覧室である。ホロコーストに関する国際的な研究図書館であるアンネ・フランク・ショアー図書館のイニシアティブにより、1992年にライプツィヒ館内で開室した「図書館内図書館」

ともいべき閲覧室である。常時18歳未満の者の利用を許可しているほか、室内には他の閲覧室にはないグループワークスペースが備えられている(写真35)。

本館の2階には、マルチメディア・定期刊行物資料閲覧室がある。開室当初の雰囲気をなるべく損なわないようにと、室内の基本的なレイアウトやデザインは90年前とほとんど変わっていない(写真36, 37)。側面には木棚が配置され、雑誌などの定期刊行物がきれいに整理されている(写真38)。最近発行された雑誌はすぐに手に取って読むことができるので大変便利である。

半島のように本館から突き出たユニークな場所に位置するのが音楽資料閲覧室である。なめらかな曲線のレイアウトが印象的で、新館を設計したガブリエル・グロックラーが外観・内装ともデザインを手掛けている(写



真39, 40)。音楽の街ライプツィヒにふさわしく、ドイツ最大規模の音楽資料を提供する閲覧室である。ここで資料提供を行う音楽資料館は、もともと西ドイツ時代のフランクフルトにあったドイツ図書館（ドイチェ・ビブリオテーク）の一部門として、1970年にベルリンに設置され、2010年にライプツィヒ館に統合された。

さて、新館2階にはドイツ書籍活字博物館資料閲覧室がある（写真41）。こちらもかつて印刷・製本業が盛んであったライプツィヒにふさわしい閲覧室と言えよう。三角形の窓が特徴的で、斬新なデザインの閲覧室であるが、ここでは、書籍文化の分野において最も古い歴史を有するドイツ書籍活字博物館が資料を提供する。1884年にライプツィヒに創設された同博物館は、第二次世界大戦中に建物が倒壊し、占領期には稀少コレクションがソ連軍に押収される等の深刻な損失を経験したが、1950年にライプツィヒのドイツ図書館（ドイチェ・ビューフェライ：現在のライプツィヒ館の前身）と統合し、新たな居場所を得ることになった。

博物館が有する資料の一部は新館の常設展示室で陳列されている。常設展示室は、新館ひいては館全体のショーウィンドー的な役割が期待されているため、内と外の区別を意図的にぼかした造りで、展示室としては珍しく一面ガラス張りとなっている。室内は明るく開放的ではあるが、展示資料が外光にさらされるため、ガラス窓には特殊な加工技術が施されており、その結果、資料に損傷を与える光線の実に98%の遮断に成功している。特別展示を行っている別の展示室は、主に6～16歳を対象に書籍や文書等について学ぶ機会を提供している。

## おわりに

ベルリン国立図書館とドイツ国立図書館は、ともに東西ドイツでそれぞれに業務を行ってきた図書館を統合して、現在の姿に至っている。当然のことながら、東西ドイツに別々に位置していた図書館が当初から一体的な運用を前提として建てられたわけではないが、それにもかかわらず、現在の両館は、歴史的に形成された各施設の設備やコレクションをうまく活かしながら、サービスを提供しているように思われた。

ドイツ全体でみても、収集分担計画に見られるとおり、全国規模での連携・協力が見られる。ドイツの図書館やその協力のありようへの理解を深めた、この度のベルリンとライプツィヒへの訪問であった。

（利用者サービス部複写課 おくむら まきと）



# 占領期日本における 華僑の出版物

メリーランド大学  
ゴードン W. プランゲ文庫室長  
巽 由佳子

プランゲ文庫とは、日本が占領下にあった時期に、占領軍が検閲のために収集した図書、雑誌、新聞等のコレクションです\*。メリーランド大学が所蔵するこの貴重なコレクションを、国立国会図書館はマイクロフィルムやデジタル画像などで収集しています。このたび、占領期の日本で出版されたまだあまり知られていない出版物について、巽由佳子プランゲ文庫室長に寄稿していただきました。

\*本誌657号(2016.1)「メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 ～占領期出版物は宝の山～」参照

## 概要

プランゲ文庫には、利用者との出会いを待ち望んでいる資料がまだまだ数多く存在しており、在日華僑による出版物もそのひとつである。「華僑」とは中国本土から海外に移住した中国人とその子孫のことである<sup>1</sup>。日本における華僑は日中文化交流の担い手であり、日中両国の歴史と深く結びついている。近代以降、日清修好条規(1871年締結、73年発効)により開港された新潟、横浜、下田、大阪、神戸、長崎で本格的に華僑社会を形成し<sup>2</sup>、貿易商などが中心となって日本の近代化に貢献した<sup>3</sup>。その後、日清戦争(1894～95)、日本の台湾統治(1895～1945)、中華民国成立(1912)、満州事変(1931)、日中戦争(1937～1945)など日本との対立とそれ



## 巽 由佳子(たつみ ゆかこ)

メリーランド大学博士課程、ジョージワシントン大学日本資料センター司書を経て、2014年6月より現職。

に伴う華僑政策に翻弄されながらも、在日華僑は増加の一途をたどり、日中戦争終結時には、およそ3万4千人の台湾人を含め、9万人程度の華僑が在住していた<sup>4</sup>。

終戦後、連合国最高司令官総司令部(GHQ/SCAP)占領統治下の日本で、華僑は日本人や旧植民地出身者である朝鮮人と同様に自らのメディアを立ち上げる<sup>5</sup>。新聞や機関紙は、1948年6月時点で日刊紙2紙、その他週刊、月刊紙など17種が発行されている。雑誌類は、総合誌、婦人雑誌、経済誌など多岐にわたり、総数23誌の発行が確認されており<sup>6</sup>、在日華僑の思想的広がりや重層的な社会構成を物語っている。また、華僑メディアには日本国内外のメディア、日本の中国研究者、華僑関連団体、

中華民国政府機関などが関わっており、華僑社会が日本そして国際社会と深く結びついていたことを証明している。

これらの在日華僑メディアの多様性および越境性を考察するため、代表的な出版物の数例を紹介する。華僑メディアの大半は財政難などで出版後ほどなく廃刊しているが、比較的長期間にわたり安定した発行数を保っていたものもある。これらに関してはGHQ/SCAPが詳細な記録を残している。米国国立公文書館に保存されているそれらの記録を用いて、出版物の概要を紹介していく。なお、見解にあたる部分もGHQ/SCAPの記録に基づくものである。

ここに紹介する資料はすべてメリーランド大学ブランゲ文庫、国立国会図書館東京本館憲政資料室（デジタル化したものは関西館、国際子ども図書館でも閲覧可能）、マイクロ資料を所蔵する日米の教育および研究機関（日本では、国際日本文化研究センター、熊本学園大学、神奈川大学、アメリカでは、ハーバード大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ミシガン大学等）において閲覧可能である。

#### 【米国国立公文書館所蔵の記録】

*Chinese Magazines Recorded in Publications Section*

*The Chinese Press in Japan No. 42-43.*

*Information of Chinese Publisher of Magazines.*

*Memorandum for Record: Subject: Information on Magazine Titled Chugoku Bunteki (Formaly Kabun Kokusai) . 1 March 1949.*

*Special Information Report. Press: Connection between Naigai Taimusu (Domestic and Foreign Times) and Hochi Shimbun (Hochi News). 6 June 1949.*

*Subject: Chinese Newspapers. 4 March 1949.*

*Summary Information. Subject: Chuka Nippo Shimbun.*

*Summation: The Chinese Press in Japan.*

※紹介記事内の〈 〉は、国立国会図書館所蔵資料の請求記号。VHから始まる請求記号はブランゲ文庫（憲政資料室所管）、それ以外は新聞または雑誌として所蔵しています。

#### 新聞（日刊紙）

#### 国際新聞 日本語

ブランゲ文庫所蔵：686～1404号（1947年10月25日～1949年10月17日）欠号あり 〈VH3-Ko54/Ko55, 071-07765〉

中華国際新聞社（大阪）によって、1945年10月に創刊された。31万2千部（1949年当時）を発行していた最大手の華僑新聞である<sup>7</sup>。当時の在日華僑総数が3万人から4万人（1946年～1950年）程度<sup>8</sup>であったことを考えると、在日華僑以外にも広範囲にわたる読者層を獲得していたことがうかがえる。国内外で幅広いメディアと提携しており、日本では共同ニュースや時事通信社、ラヂオプレス通信社、中国からは新华社、大公报、台湾からは台湾新生報などの情報源を通して得た国内外のニュースを幅広く掲載していた<sup>9</sup>。



## 中華日報 日本語

プランゲ文庫所蔵：138～1009号（1946年9月4日～1949年3月20日）欠号あり <VH3-C67/C69>

東京中華日報社（東京）により、1946年1月創刊、『國際新聞』に次ぐ日刊紙として11万5千部（1949年当時）を発行していた。編集方針は、占領政策に協力し友好的な日中関係を構築することとし、国共内戦に対しても中立的立場を貫いた<sup>10</sup>。読売新聞および報知新聞と同じ広告代理店を利用して同種の広告を掲載するなど、両新聞社とつながりをもっていたとされる<sup>11</sup>。1949年3月には、経営困難に陥ったため報知新聞との合併が模索されたが、反対する社員たちのストライキにより阻止された<sup>12</sup>。ストライキの間、一時休刊していたが、1949年6月『内外タイムス』という新たな名称で発行が再開された<sup>13</sup>。なおプランゲ文庫は『内外タイムス』1011～1149号（1949年6月2日～同年10月18日）も所蔵している。

## 機関紙

## 中国留日学生報<sup>14</sup> 日本語および中国語

プランゲ文庫所蔵：3～36号（1947年3月10日～1949年10月11日）欠号あり <VH3-C57>

中国留日同学総会（東京）によって、1947年1月31日に機関紙として創刊された<sup>15</sup>。終戦後の1946年に、日本に残っていた中国人および台湾人留学生はそれぞれ456名、765名、総計1,200名余りとされている<sup>16</sup>。戦前別々に運営されていた中国人と台湾人の留学生の組織は、1946年12月に「中国留日同学総会」として合併した<sup>17</sup>。機関紙は、在日華僑および留学生そして中国文化に興味を持つ日本人を啓蒙することを発行目的とし、8ページのタブロイド版を月刊で3千部発行、記事の60%程度が日本語、残りが中国語で書かれていた<sup>18</sup>。当初は学生の活動等に焦点を当て、また日本人の中国研究者が政治、教育、文学、経済といった幅広い分野にわたって記事を投稿していた。しかし、国共内戦が激化するにつれ急速に政治色を帯びていった。中国留日同学総



会は華僑の全国的組織である華僑總會および中華民國駐日代表團の財政的支援を受けており、記事内容は事前に駐日代表團の検閲を受けていたとされる<sup>19</sup>。

### 経済紙

#### 貿易通訊 日本語

プランゲ文庫所蔵:2~123号(1947年5月23日~1949年9月23日)  
欠号あり <VH3-B20/B21>

中華貿易通訊社(名古屋)によって1947年に創刊された。タブロイド版2ページの国際貿易専門紙で、毎週600部を発行した。時事通信社からのニュースを主な情報源とし、名古屋周辺の商業活動、日本の国際貿易に対する展望、国際貿易の現状などを取り上げていた。日本の経済力向上のためには占領政策への協力が不可欠であるとし、米国の占領を支持する立場をとっていた。中国共産党との貿易の可能性を示唆しており、人々の生活必需品の需要は普遍的なものであるため、政治的信条を超えて日中の経済関係は確立され、両国間の貿易は発展するであろう

と主張している<sup>20</sup>。

### 総合雑誌

#### とうげん 桃源 日本語

プランゲ文庫所蔵:1号~4巻3号(1946年10月~1949年6月)  
欠号あり <VH1-T454, Z920.5-To1>

吉昌社(東京)により1946年10月に創刊された。中国の芸術、歴史、哲学、文学を紹介することを目的とした総合月刊誌として1万5千部を発行した。中日両国の著名人からの寄稿があり、武者小路実篤は「老境について」(1947年3月発行第3号に掲載)という随筆に加え、表紙の挿絵も数冊にわたり担当している。非政治的出版方針を明言していたが、第4巻2号(1949年3月発行)では、「中国農村社会の特質」や「中国内戦と世界史の流れ」といった記事も掲載されるようになり、本国での社会、政治問題にも焦点をあてるようになっていった<sup>21</sup>。



みんしょう  
**民鐘** 日本語

プランゲ文庫所蔵：1巻1号～3巻8-10号（1946年12月～1948年12月）欠号あり <VH1-M387, Z051.3-M16>

国際民鐘社（東京）により1946年12月に月刊誌として創刊され、5千部を発行した<sup>22</sup>。中日両国民の相互理解と提携の促進を創刊目的とし、中日両国の代表的論壇人、専門家の寄稿による総合雑誌として出版された<sup>23</sup>。両国の貿易、経済、社会、教育、文学など幅広い分野を網羅していたが、占領軍の批判にあたる等の理由でCCD（Civil Censorship Detachment、連合国最高司令官総司令部の民間検閲支隊）により保留および削除の対象となった記事も見られる<sup>24</sup>。

**中國公論** 日本語

プランゲ文庫所蔵：1巻1号～2巻2号（1948年6月～1949年3月） <VH1-C236, Z051.3-Ty8>

留日華僑総会社会組（東京）により1948年6月に創刊され、月刊で1,500部を発行した。創刊目的を、日中間の文化的協力と友好関係を促進し、平和な日

本の再建と、平和で民主的な国際社会の建設に貢献するとし、日中両国の政治や経済に焦点を当てていた。出版方針としては、国民党および中国共産党のどちらにも与しない“民主的”立場を堅持することを打ち出していた。しかし、中国共産党の勢いが増すにつれ左傾化していった<sup>25</sup>。

**中國文摘** 中国語

プランゲ文庫所蔵：1巻2号（1949年1月）<sup>26</sup> <VH1-C225>

『国際新聞』を刊行している中華国際新聞社により1948年1月『華文国際』の名で創刊、1949年1月より『中國文摘』に誌名変更し、隔週で3千部発行した。同誌は、中国における政治、経済、社会の現状を伝えることを目的とし、中国で発行されている主要新聞、雑誌からの抜粋記事を転載していた<sup>27</sup>。出版方針として政治的中立を打ち出していたが、転載していた記事からは左派的立場をとっていたことがうかがえる<sup>28</sup>。



## おわりに

ここに取り上げた出版物はほんの一部ではあるが、いずれの出版社も独自の方針を掲げ、それを推し進めるべく、国内外の様々なメディアや組織、文筆家や研究者などと関わりを持っていた。これらの関係を明らかにし掘り下げていくことは、占領期日本のメディア社会および華僑社会の重層性、多様性、そして越境性を可視化し、占領期日本をより深く理解するための新たな視点となるであろう。これらの貴重な資料が一人でも多くの利用者と出会えるよう、今後もスタッフと共に尽力し、保存作業および情報提供を進めていきたい。

## 【参考文献】

○何義麟「戦後台湾人留学生の活字メディアとその言論の左傾化」大里浩秋 編『戦後日本と中国・朝鮮：プランゲ文庫を一つの手がかりとして』研文出版, 2013.

○小林聡明「GHQ占領期日本における朝鮮人メディアの世界—機関紙と雑誌に関する書誌的分析—」大里浩秋 編『戦後日本と中国・朝鮮：プランゲ文庫を一つの手がかりとして』研文出版, 2013.

○川島真「過去の浄化と将来の選択—中国人・台湾人留学生」劉傑・川島真 編『1945年の歴史認識：〈終戦〉をめぐる日中対話の試み』東京大学出版会, 2009.

○朱慧玲 著、高橋庸子 訳、段躍中 監修『日本華僑華人社会の変遷：日中国交正常化以後を中心に』日本僑報社, 2003.

○田中宏「戦後日本における中国人の地位—その推移と現状」愛知県立大学外国語学部 編『愛知県立大学外国語学部紀要。地域研究・関連諸科学編』1983.

○許淑真「留日華僑総会の成立に就いて（1945～1952）」山田信夫 編『日本華僑と文化摩擦』巖南堂書店, 1983.

○陳蕙芳「在日華僑言論出版界の現状」『中國公論』創刊号, 留日華僑総会社会組, 1948.

- 1 広辞苑第6版（岩波書店, 2008）参照
- 2 朱慧玲 著、高橋庸子 訳、段躍中 監修『日本華僑華人社会の変遷：日中国交正常化以後を中心に』（日本僑報社, 2003）pp.49-54 なお「日清修好条規」は、引用元では「日中修好条約」となっているが、ここではより正確な名称であると考えられる前者を使用する。
- 3 例えば、日清戦争後の大阪華僑の主要輸出品目は、綿布、絹織物などを含んでおり、日清戦争後の日本の軽工業の発展と関連している。また、神戸にやってきた華僑は、この地に初めてランプや石油などをもたらしている。許淑真「留日華僑総会の成立に就いて（1945～1952）」山田信夫 編『日本華僑と文化摩擦』（巖南堂書店, 1983）pp.128-130
- 4 その後1949年9月30日までに、約4万2千人が中華民国、

約2万4千人が台湾へ帰還したと記録されている。田中宏「戦後日本における中国人の地位—その推移と現状」愛知県立大学外国語学部 編『愛知県立大学外国語学部紀要。地域研究・関連諸科学編』（1983）pp.28-29

- 5 朝鮮人メディアに関しては小林聡明が詳しく論じている。小林聡明「GHQ占領期日本における朝鮮人メディアの世界—機関紙と雑誌に関する書誌的分析—」大里浩秋 編『戦後日本と中国・朝鮮：プランゲ文庫を一つの手がかりとして』（研文出版, 2013）
- 6 陳蕙芳「在日華僑言論出版界の現状」『中國公論』創刊号（留日華僑総会社会組, 1948）pp.16-17
- 7 *Summation: The Chinese Press in Japan*, Press, Pictorial, Broadcast Division, Civil Censorship Detachment, GHQ/SCAP Records, Civil Intelligence Section, Box 8620, Folder, 2, RG 331, NACP. p.2
- 8 前掲2『日本華僑華人社会の変遷：日中国交正常化以後を中心に』p.55
- 9 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. p.2
- 10 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. pp.7-11
- 11 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. p.10
- 12 *Summary Information. Subject: Chuka Nippo Shimbun*, Press, Pictorial, Broadcast Division, Civil Censorship Detachment, GHQ/SCAP Records, Civil Intelligence Section, Box 8645, Folder, 62, RG 331, NACP. pp.1-2
- 13 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. p.7
- 14 創刊から1947年4月までは『中華民国留日学生旬報』、1948年5月3日までは『中華留日学生報』、その後『中国留日学生報』に紙名変更している。
- 15 何義麟「戦後台湾人留学生の活字メディアとその言論の左傾化」大里浩秋 編『戦後日本と中国・朝鮮：プランゲ文庫を一つの手がかりとして』（研文出版, 2013）p.129
- 16 川島真「過去の浄化と将来の選択—中国人・台湾人留学生」劉傑・川島真 編『1945年の歴史認識：〈終戦〉をめぐる日中対話の試み』（東京大学出版会, 2009）p.34
- 17 前掲15「戦後台湾人留学生の活字メディアとその言論の左傾化」pp. 125-128
- 18 *The Chinese Press in Japan* No. 42-43, Press, Pictorial, Broadcast Division, Civil Censorship Detachment, GHQ/SCAP Records, Civil Intelligence Section, Box 8620, Folder, 2, RG 331, NACP.
- 19 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. pp.11-14
- 20 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. pp.15-16
- 21 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. p.19
- 22 *Information of Chinese Publisher of Magazines*. Press, Pictorial, broadcast Division, Civil Censorship Detachment, GHQ/SCAP Records, Civil Intelligence Section, Box 8622, Folder, 4, RG331, NACP.
- 23 『民鐘』（国際民鐘社）創刊号（1946.12）「創刊の辞」および同2巻2号（1947.4）表紙
- 24 前掲22 *Information of Chinese Publisher of Magazines*.
- 25 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. pp.17-19
- 26 国立国会図書館関西館アジア資料室は、『中國文摘』創刊号 <Z1-AC26>およびその前身である『華文國際』<Z052.3-Ka1>を所蔵している。
- 27 *Memorandum for Record: Subject: Information on Magazine Titled Chugoku Bunteki (Formaly Kabun Kokusai)*, Press, Pictorial, Broadcast Division, Civil Censorship Detachment, GHQ/SCAP Records, Civil Intelligence Section, Box 8620, Folder, 2, RG 331, NACP (1 March 1949). p.3
- 28 前掲7 *Summation: The Chinese Press in Japan*. p.20

# 博士論文の 現況と利用方法



博士論文とは、博士の学位を得るために大学等の学位授与機関に提出された学位請求論文のうち、教授会等の審査に合格して、学位申請者に博士の学位が与えられたものを指します。ここでは、そんな博士論文のうち、国内の学位授与機関によって学位が授与された国内博士論文についての現況と、利用方法をご紹介します。

## 博士論文利用のポイント



**平成 25 年 4 月以降に学位を授与された博士論文は、原則インターネットで公開されています。**

学位授与機関の機関リポジトリ\*等で公開されています。検索するには、国立情報学研究所の CiNii Dissertations (<http://ci.nii.ac.jp/d/>) が便利です。国立国会図書館でも博士論文のデジタルデータを収集・保存しています。  
\* 論文などの知的生産物を電子的に保存、公開するシステム



**国立国会図書館がデジタル化した国内博士論文 14 万点は、一部を除き全国 600 以上の図書館で閲覧可能です。うち 1 万 5 千点はインターネットでも公開しています。**

平成 3 年度～平成 12 年度に国立国会図書館が送付を受けた博士論文 14 万点は、デジタル化済です。国立国会図書館の館内のほか、図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館で、これらを利用できます。



**そのほか、関西館で所蔵する印刷物の国内博士論文は、関西館での閲覧、東京本館への取寄せ、遠隔複写等が可能です。**

平成 25 年 3 月以前の博士論文をまとめて所蔵し、印刷物またはデジタル化資料として利用できるのは、国立国会図書館のみです。学術資料であると同時に、およそ 60 万人の博士たちの足跡を知る、価値ある資料群です。

## 博士論文の収集

国立国会図書館（以下NDL）では、関東大震災後の大正12（1923）年9月以降の博士論文を関西館で所蔵しています。

博士論文の収集は、昭和10（1935）年に、NDLの前身の一つである帝国図書館へ、当時の文部省から博士論文を移管したことに始まります。それまで博士論文は、文部省に提出されて保管されていましたが、大正12年9月に起きた関東大震災で、保管していた博士論文が焼失したことを受けて、文部省と帝国図書館の間で協議が行われ、博士論文は帝国図書館が保管・所蔵することになりました（詳しくは本誌574号（2009.1）「国内博士論文のご紹介」をご覧ください）。

NDLでは、印刷物の博士論文を、平成27年12月時点で約58万9千人分所蔵しています。所蔵している論文は、1点ずつ封筒に入れた状態で、関西館の書庫に収められています。その中には、医学博士でもあった漫画家の手塚治虫氏の博士論文や、昭和24（1949）年にノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹氏の博士論文などもあります。



博士論文を収蔵する書庫（関西館）

## 印刷物の博士論文の利用方法

NDLが印刷物の形態で所蔵しているすべての博士論文は、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で検索できます。

検索する際は、NDL-OPACの詳細検索画面で、タイトルや著者名、学位授与機関名（大学名など）、学位の報告番号等から検索ができます。こうして検索した博士論文は、NDLで利用者登録をすると、関西館での閲覧、東京本館への取寄せ、郵送での複写申込みといった利用ができます。複写できる範囲は著作権法により許容されている範囲内（原則として一著作物の半分まで）となります。

### NDL-OPAC 検索のコツ



博士論文にチェックを入れて①検索します。学位授与機関名は、プルダウン②から[注記]を選び入力、学位の報告番号は、[各種番号類]を選び、その欄に「甲第〇〇号」のように入力することで検索できます。



デジタル化されている資料には、「デジタル化資料」のアイコン③が表示されます。クリックすると国立国会図書館デジタルコレクションに遷移します。

## デジタル化した博士論文

平成3年度から平成12年度までに送付を受けた博士論文約14万点については、デジタル化が完了しています。デジタル化した博士論文は、NDL館内、または図書館向けデジタル化資料送信サービス<sup>1</sup>の参加館で閲覧や複写ができるほか、タイトルや著者、出版年月日等の書誌情報や目次はインターネットで見ることができます。

また、著作権者から許諾を得た約1万5千点については、学位論文本体および論文要旨をインターネットで公開しています<sup>2</sup>。公開された論文は、全文を画像で閲覧できます。

デジタル化した博士論文は、「国立国会図書館デジタルコレクション(以下、デジタルコレクション)」の「博士論文」の画面から検索することができます。

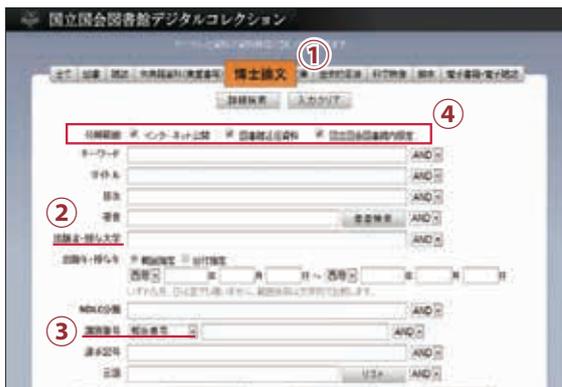
## 電子形態の博士論文

平成25年3月、学位規則(昭和28年文部省令第9号)が改正され、平成25年4月以降の博士の学位取得者は、原則として博士論文の全文を、学位授与機関の協力を得てインターネットで公表することが義務付けられました。このため博士論文は、従来の印刷物の形態から、電子形態での公表に変更されました。これに伴い、NDLでは、印刷形態のものと同様に、電子形態の博士論文についても、学位授与機関の協力を得て収集しています<sup>3</sup>。

NDLでは、博士論文全文が学位授与機関等の機関リポジトリで公表されているものについては、国立情報学研究所と連携して、自動的に収集しています<sup>4</sup>。

収集された電子形態の博士論文は、デジタルコレクションで公開されており、NDL館内で閲覧できます。

### 国立国会図書館デジタルコレクションでの検索と閲覧



#### ○検索のコツ

詳細検索の画面で「博士論文」①を選ぶと、タイトルや著者名、学位授与機関名②、学位の報告番号③等から検索することができます。公開範囲を「インターネット公開」「図書館送信資料」「国立国会図書館内限定」のどれかに絞って④検索することができます。



#### ○インターネットで閲覧できる資料の例

InGaN 高輝度青色LEDに関する研究 / 中村修二 [著] (徳島大学 乙第1371号 博士(工学))  
2014年に、赤崎勇氏・天野浩氏と共同でノーベル物理学賞を受賞した中村修二氏が、徳島大学に提出した博士論文です。1994年11月11日に工学博士の学位を授与されました。許諾をいただいてインターネットで公開しています。

## 国内博士論文の形態と NDL での利用方法

学位授与年度等	検索	利用できる形態	利用方法
大正12年～平成24年度 (下記を除く)	NDL-OPAC	印刷物	関西館での閲覧 東京本館への取寄せ 遠隔複写
平成3年度～平成12年度 ※NDL が送付を受けた年度	NDL-OPAC デジタルコレクション	電子形態 (NDL がデジタル化したもの) * デジタル化した博士論文は、原則として印刷物に代えて電子形態での利用となります。	デジタルコレクションでの閲覧 デジタル化した 14 万点のうち、 ・ 許諾を得た約 1.5 万点は主論文をインターネットで公開 ・ それ以外は NDL 内、一部を除き図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館内で公開
平成 25 年度～	デジタルコレクション	電子形態 (学位規則の一部改正により電子形態で収集したもの) * 例外的に印刷物の形態で収集・提供している場合があります。	デジタルコレクションでの閲覧 ・ 許諾を得たものはインターネットで公開 ・ それ以外は NDL 内で公開

### まとめ

これまでご紹介してきたように、国立国会図書館で所蔵している博士論文には、その収集時期等によって、印刷物の形態で提供しているものと、電子形態で提供しているものがあり、それぞれ利用方法が異なります。時期による形態の違いと利用方法については、上の表をご覧ください。

博士論文には、様々な研究成果に加え、先行研究のレビューや参考文献が豊富に含まれており、調査研究において重要な資料であると考えられます。NDL-OPAC での検索や、ご自宅の端末からの閲覧が可能になるなど、より身近に利用できる資料となった博士論文を、今後ますます活用し、役立てていただければと思います。

(関西館文献提供課)

- 1 国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、国立国会図書館の承認を受けた公共図書館・大学図書館等でデジタル画像の閲覧等を可能とするサービス。なお、一部の博士論文（商業出版されている博士論文など）は、図書館向けデジタル化資料送信サービスの参加館では閲覧・複写できません。
- 2 デジタル化した国内博士論文をインターネット公開するために、大学図書館と協力して国内博士論文の著作権者に許諾を求めました。なお、許諾の対象は学位論文本体および要旨としており、「副論文」や「参考論文」（学位論文本体のほかに、学位審査の参考にするために提出される論文）についてはインターネット公開していません。
- 3 平成25年4月以降に学位授与の対象となった博士論文でも、やむを得ない事由によりインターネット公表されていないものなどを、印刷物の形態で収集している場合があります。
- 4 自動収集の仕組みに対応しない方法で公表される論文については、国立国会図書館が提供する送信システムを通して送付していただくことで収集しています。このうち許諾を得たものについては、インターネット公開しています。国内博士論文の収集、仕組みについては、「国内博士論文の収集」をご覧ください。 <http://ndl.go.jp/jp/aboutus/hakuron/index.html>

#### <参考資料>

- リサーチ・ナビ「国内博士論文」  
[http://mavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-100044.php](http://mavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-100044.php)
- 資料デジタル化について  
<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitization/index.html>
- 「国内博士論文のご紹介」『国立国会図書館月報』574号(2009.1)pp. 34-35

## Cinii Dissertations 日本の博士論文を探す



2015年6月11日、国立情報学研究所（以下、NII）は日本国内の博士論文のメタデータを無料で検索することができる「Cinii Dissertations」（以下、Cinii D）を公開しました。Cinii Dは3つのデータベースのデータを利用しています。具体的には、①各大学の機関リポジトリ（以下、IR）に登録されている博士論文（約13万件）②NDL-OPACに登録されている1923年9月以降の国内博士論文（約59万件）③NDLが1991年度から2000年度までに受け入れ、電子化した「国立国会図書館デジタルコレクション」（約14万件）（以下、デジタルコレクション）の3つです。IRおよびデジタルコレクションについては、インターネット上で公開されている本文・要旨等があれば、リンクボタンを表示しています。

Cinii Dの公開の背景には2013年4月の学位規則の改正があります。この改正によって、博士の学位を授与された者は博士論文をインターネットで公表することが義務付けられ、学位を授与した機関が運営するIR等に登録することが原則とされています。NIIでは、各大学のIRおよびNDLから収集している博士論文メタデータを統合することで、国内の博士論文に関する一元的かつ網羅的な検索環境の実現を目指しました。

公開後に実施した利用者アンケート（2015年11月10日から12月4日まで実施）では、「Cinii ArticlesやCinii Booksと同じインターフェイスで使いやすい」というご意見や、「網羅的でよい」といったご意見をいただきました。一方で、「本文が公開されている件数が少ない」というご意見も多く寄せられ、学位規則改正前の博士論文について、趣及的な登録・公開作業が業界全体としての課題になっていることを改めて認識しました。Cinii Dを研究者の方はもちろん、一般利用者の方にも広くお使いいただき、今後もご意見をいただきたいと考えております。

（国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課

学術コンテンツ整備チーム ふるはし はなえ  
古橋 英枝

## 米国の 博士論文事情



### はじめに

いくつかの機関が世界の大学ランキングを公表していますが、そのいずれにおいても、上位には米国の大学が多く名を連ねています。ランキングの妥当性には疑問の声もありますが、それらの大学が世界でもトップクラスの水準にあることは、多くの人が認めるところでしょう。本稿では、世界の学問をリードする米国の博士論文事情について、おもに利用の観点から、簡単に紹介します。なお、内容の一部は、筆者が米国で実施した聞き取り調査に基づいています。

### 50,000人以上に博士号

米国国立科学財団の統計<sup>1</sup>によると、米国では2014年、426大学から54,070人に博士号が授与されました。基本的にはそれと同数の博士論文が提出されたことになります。分野別に見ると、生命科学の分野が23.1%で最も多く、物理学（18.2%）、工学（17.7%）、社会科学（16.0%）の各分野が続いています。

日本の場合、国立国会図書館の所蔵を確認することでほとんどの博士論文にたどり着くことができます。では米国の博士論文の場合は、どのようにしてそれらを探し、利用することができるのでしょうか。

## プロクエストの存在

米国における博士論文の利用や流通を語るうえで欠かすことができないのが、プロクエスト（旧 UMI）という会社です。ミシガン州アナーバーに本部を置く同社は 1938 年の創設以来、全米から学位論文（博士論文と修士論文）を収集し、出版してきました。現在、約 700 大学から年間 90,000 人分以上の学位論文を収集しています<sup>2</sup>。近年は、論文のほとんどを、専用のシステムを通じて電子形態（PDF ファイル）で受け入れています。

米国の博士論文を探す場合、まずは同社のデータベース「ProQuest Dissertations & Theses (PQDT)」<sup>3</sup>を検索するのが一般的です。メタデータが確認できるだけでなく、抄録や本文の一部を読むことができます。中には全文を無料で閲覧できる場合もあります。なお、2014 年の米国の博士論文を検索すると 50,000 件以上がヒット<sup>4</sup>し、収集率の高さを物語っています。

1999 年、プロクエスト社は、長年の実績が認められ、米国議会図書館と学位論文に関する協定を結びました。この協定により、電子形態の学位論文については、同社が米国議会図書館に代わり収集し、責任を持って保存することになっています。



プロクエスト社

## 進むリポジトリ公開

プロクエスト社が大きな役割を果たす一方、資料の電子化とそれに伴うオープンアクセスの進展により、博士論文が大学の機関リポジトリに登録され、インターネット公開されるケースも増えてきました。2つの大学を紹介します。

### <ミシガン大学>

米国でもトップクラスの博士号授与数を誇るミシガン大学は、2012 年から博士論文を電子形態で提出することを義務付けており、提出された論文はすべて、大学の機関リポジトリで公開されます。インターネット公開にあたっては、例えば論文に図版を引用している場合等、論文執筆者以外が有する著作権への留意が必要ですが、執筆者が著作権者から公開のための許諾を得ることもまた、学位取得の過程の一つと捉えられているようです（大学側も必要な支援を行っています）。特別な事情がある場合は公開の猶予が認められる場合もありますが、それも学位授与から最大で 3 年と定められています。

### <マサチューセッツ工科大学 (MIT) >

MIT は、自学の研究成果のオープンアクセスを積極的に進めており、博士論文も 2004 年以降のものはすべて、機関リポジトリで公開されています。ミシガン大学と異なり、論文は冊子体で提出され、大学図書館で電子化されます。私が聞き取り調査を行った 2013 年当時、MIT 関係者以外は、閲覧は自由にできるものの、プリントアウト可能な PDF ファイルのダウンロードが認められておらず、印刷物が欲しければ MIT か

ら購入する必要がありました。MIT はこのことについて、論文を自ら販売することで、オープンアクセスのためのコストをまかなうためと説明していましたが、現在は誰でも、プリントアウト可の PDF ファイルをダウンロードできるようになっています。

両大学からは、博士論文を大学の責任のもとで積極的に公開していくという明確な意思が感じられます。博士論文のインターネット公開は他の大学でも進んでおり、インターネット環境さえあれば、相当数の博士論文に目を通すことができるようになってきました<sup>5</sup>。

## おわりに

博士論文は米国においても、日本と同様、研究者にとっての主要な著作の一つであり、かつ、多くの新しい知見を含む学術資料です。プロクエスト社の長年の企業努力や、大学の資料公開への取り組みによって、この貴重な資料へのアクセスが守られています。

（関西館電子図書館課 福嶋 聖淳<sup>ふくしま せいじゅん</sup>）

- 1 <http://www.nsf.gov/statistics/2016/nsf16300/data-tables.cfm>
- 2 <http://www.proquest.com/products-services/dissertations/>
- 3 NDL 館内の端末を通じて利用できます。
- 4 2015 年 12 月現在
- 5 博士論文の電子化やインターネット公開は、米国だけではなく世界中で進められています。Networked Digital Library of Theses and Dissertations (NDLTD) による「Global ETD Search」等で一元的な検索が可能です。<http://search.ndltd.org>

※ NDL での海外博士論文の利用については、リサーチ・ナビ「海外博士論文（総論）」をご覧ください。  
[https://navi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-400041.php](https://navi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400041.php)

# お答えします、 図書館送信の ギモンあれこれ



## Part 2

### 図書館員の みなさまへ

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版等の理由で入手が困難な資料を、全国の公共図書館、大学図書館等の館内で利用できる「図書館向けデジタル化資料送信サービス」（図書館送信）。平成26年1月21日の開始から2年が経過し、参加館も600館を超え全都道府県に達しました。

図書館送信についてさらに理解を深めていただけるよう「ギモン」の数々にお答えする2回目、今回は複写に関するギモンにお答えします。

#### 複写に関するギモン

#### Q14. 印刷の画質はどのようなものですか？

印刷の画質を確認したい場合は、インターネット公開資料を印刷してご確認ください。インターネット公開資料も図書館送信の対象資料（送信資料）も、本文の画像は同一のシステムから送信しているため、画質は同じです。印刷の際に画質を調整することも可能です。

#### Q15. どうして一度の操作ですべての画像を印刷できないのですか？

PDF作成時にサーバに大きな負荷がかかるためです。

#### Q16. どうして全ページ複写提供できないのですか？

参加館による複写提供は、著作権法第31条第3項に基づき、著作権者からの許諾がない限り原則として「著作物の一部分」までに限定されてい

ためです。もちろん、通常の図書館資料と同様、著作権者からの許諾が得られたものや、著作権の保護期間が満了したと参加館で判断したのものについては、全ページ複写提供をしていただいてもかまいません。

#### Q17. 利用者が複写を行うことはできませんか？

利用者が複写を行うことはできません。送信資料の複写提供の枠組みを定める著作権法第31条第3項の運用については、当館と著作権者・出版者団体、図書館関係者等で構成する「資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会」で取りまとめた合意事項で定められています。その中で、「送信先機関における複写物の作成は、利用者ではなく、送信先機関が行う」（「国立国会図書館のデジタル化資料の図書館等への限定送信に関する合意事項」（平成24年12月10日 国図電1212041号）3(3)④ア）（[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitization/digitization\\_agreement02.pdf](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitization/digitization_agreement02.pdf)）とされ、さらに、当館の資料利用規則にも「当該複写物の作成を利用者に行わせないこと」（第51条の6第2項第1号）と定められています。このため、複写提供に当たっては、利用者自身ではなく、必ず図書館職員が行うようにしてください。

#### Q18. 来館せずに利用者が送信資料の複写物を受け取ることはできますか。

来館されない利用者への送信資料

の複写物の提供はできません。

利用者が来館せずに申込みを行い、郵送等で複写物を受け取りたい場合は、当館の遠隔複写サービスをご利用いただけます。遠隔複写サービスについては、当館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy3.html>）でご確認ください。

#### Q19. 送信資料を全ページ印刷して自館の蔵書としてよいですか？

図書館の蔵書とする目的で印刷することはできません。送信資料の参加館での印刷は、原則として、著作権法第31条第3項に定められている範囲、すなわち、利用者の申込みに応じて、原則として著作物の一部分に限り提供するためにのみ認められています。

自館の蔵書とするためにデジタル化資料の全ページの複写物入手したい場合は、当館にお申込みいただくこととなります。詳しくは「国立国会図書館図書館協力ハンドブック 第5章：複写サービス」（<http://www.ndl.go.jp/jp/library/handbook/>

[handbook/chapter\\_5.pdf](#)）の5-2「複写サービスの範囲」をご覧ください。

#### Q20. インターネット公開されている資料は、利用者に複写提供してよいですか？

国立国会図書館デジタルコレクションに収録されているデジタル化資料には、①インターネット公開資料、②送信資料、③国立国会図書館内限定公開資料の3種類があり、①はさらに、①-1著作権保護期間が満了したことを当館が確認したもの、①-2当館で著作権者からの許諾や文化庁長官の裁定を受けたもの、の2種類に分かれます。

このうち①と②につき、図書館送信の参加館で本文の画像を閲覧いただくことができますが、画像を複写提供することができるのは、著作権保護期間が満了している①-1と、著作権法第31条第3項後段の規定を適用できる②に限定されます（下の表を参照）。①-2については、「絶版等資料に係る著作物」にのみ適用できる同項後段の規定を適用することが

#### デジタル化資料の種類ごとの複写可否

注 ○：複写提供可 ×：原則として複写提供不可。（ ）内の数字は、著作権法の条・項を示す。

デジタル化資料の種類		自宅	参加館内	NDL館内
①インターネット公開資料	①-1 保護期間満了	○	○	○
	①-2 許諾・裁定	○ (30-1)	×	○ (31-1)
②送信資料			○ (31-3)	○ (31-1)
③国立国会図書館内限定公開資料				○ (31-1)

できず、さらに、許諾や裁定による利用の条件において、図書館送信の参加館における複写をふくんでいませんので、原則としては、図書館送信の参加館での複写提供はできない、ということになります。

したがって、許諾や裁定でインターネット公開されている資料を利用者に複写提供するためには、著作権者の許諾を得ていただくか、参加館の方で著作権保護期間の満了を確認していただくことが必要となります。

#### Q21. 著作権の状態はどこを見れば確認できますか？

国立国会図書館デジタルコレクションの書誌情報画面の「公開範囲」欄をご覧ください。「インターネット公開（保護期間満了）」と表示されているものは、著作権の保護期間満了を当館で確認できた資料です。それ以外のものは、当館で保護期間満了と確認できていない資料となります。

#### Q22. 複写料金を取ってもよいのでしょうか？

複写料金は定めていません。各参加館の判断にお任せしています。

#### Q23. 国立国会図書館に複写料金の一部を納める必要はありますか？

当館と参加館との間で、金銭のやり取りが生じることはありません。

### ご利用のサポートに関するギモン

#### Q24. 国立国会図書館内限定公開資料ですが、入手可能な手段がないようです。依頼すれば参加館に公開してもらえますか？

送信資料は、絶版等の理由で入手が困難な資料に限られます。市場での流通の終了などで入手が困難な状況になったデジタル化資料は、毎年当館が行う送信資料の選定作業において送信候補資料となることが見込まれるため、個別のご希望に応じて参加館に公開することはしていません。なお、復刻版の流通の開始などで入手可能となったデジタル化資料は、除外手続により送信資料から除外され、参加館内から利用できなくなることがあります。除外手続の詳細については「図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）に係る除外手続」(<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitization/distribution.html>) をご覧ください。

#### Q25. 書誌情報や画像が間違っています。どこに連絡すればよいですか？

「国立国会図書館デジタルコレクションの利用に関するよくあるご質問」(<http://dl.ndl.go.jp/ja/FAQ.html>) その他の質問 32、33) をご確認の上、資料のタイトル、URL、コマ番号など、

問題の箇所が確認できる情報を添えて、国立国会図書館デジタルコレクションに関するお問い合わせ先 (dl@ndl.go.jp) にご連絡ください。

#### Q26. 画像が表示されません。どうしたらよいですか？

参加館で、サービス利用中に画像が表示されない等の問題が生じた場合は、参加館職員向けの操作マニュアルに記載している方法でご確認、ご連絡ください。

以上、数多くいただいた「ギモン」にお答えしましたが、まだご不明な点がありましたら、下記の窓口まで、どうぞお問い合わせください。

図書館送信について、さらに理解を深めていただけましたら幸いです。

(利用者サービス部サービス企画課、  
関西館文献提供課、電子図書館課)



デジタル化資料送信サービス  
お問い合わせ窓口  
(関西館文献提供課 複写貸出係)  
〒 619-0287  
京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3  
TEL : (0774) 98-1330  
E-mail : digi-soshin@ndl.go.jp

## サービスの導入と利用の実際

—「デジタル化資料活用セミナー」での報告から—



国立国会図書館では、平成27年3月に図書館送信をテーマとしたセミナーを開催しました。東京本館と関西館の両会場に全国から100名を超える図書館職員の方々にお集まりいただき、参加館2館（大阪府立中央図書館、北海道大学附属図書館）の方から事例報告をしていただくとともに、国際日本文化研究センターの江上敏哲氏をコーディネータとしたディスカッションを行いました。ここでは、参加館からの報告のうち、サービスの導入と利用の様子をご紹介します。

### ○大阪府立中央図書館

#### 導入の経緯

導入した最大の理由は、古い資料の閲覧や調査に来る利用者が多く、利用が見込めたため。利用や複写に関する内規類の整備に苦労した。

#### サービス実施体制

閲覧用端末25台（社会・自然系資料室、人文系資料室、こども資料室、国際児童文学館、障がい者支援室、各カウンター。オンラインデータベース端末と共用）、管理用端末3台（複写用、統計用）。閲覧時は申込書の提出と利用者カードの提示を受ける。複写時は申込用紙を各カウンター職員が確認・署名の上、複写カウンターで提出を受ける。複写作業は民間事業者が実施、料金と引換えに製品を提供する。

#### 広報

図書館ホームページ、Twitter、館内ポスター、国立国会図書館職員の講師による利用者向け検索講座など。

#### 利用統計\*

閲覧利用者：約30人、資料の閲覧：約300点、資料の複写：約750枚。

#### サービスを導入した利点

国立国会図書館の資料がすぐ閲覧できるようになった。自館に所蔵がなかったり所蔵資料が劣化等で複写不可だったりしても、送信資料があればすぐ複写できるようになった。レファレンスで参照できる資料の幅が広がった。

### ○北海道大学附属図書館（本館）

#### 導入の経緯

古い資料の利用や国立国会図書館の資料の遠隔利用が多く、一定の利用が見込めたため。複写に関する内規の作成や閲覧用端末の設置に伴うレイアウト変更を要した。

#### サービス実施体制

閲覧用端末1台（総合カウンター前。専用端末）、管理用端末6台。利用は大学の構成員のみとし、学外からの利用希望に対しては公共図書館を案内している。閲覧時、複写時とも、各申込書の提出を受ける。複写作業は相互利用担当などの職員が実施、製品と一緒に請求書を発行し、料金は生協で収受するか、校費での振替による。

#### 広報

図書館ホームページ、Facebook、館内ポスター、チラシ、広報誌など。

#### 利用統計\*

閲覧利用者：約10人、資料の閲覧：約60点、資料の複写：約400枚。

#### サービスを導入した利点

送信資料にある文献は、図書館間貸出しサービスや複写物の取寄せをしてみたら実は不要だったということが起こらず、必要な場合だけ送信資料ですぐ複写できるため、時間と費用の節約につながった。古い所蔵資料を複写する必要が減り、資料の劣化防止に役立っている。

\*いずれも、サービス開始当初からの延べ数を月当たり換算した数。

# 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 広陵町の靴下百年史

「広陵町の靴下百年史」編集委員会 編 広陵町靴下組合 刊  
2013.4 182 p 15×21cm <請求記号 DL654-L27>

「広陵町で靴下をこんなにいっぱい作っていることをほとんど誰も知らない。」(p.160)ならば、広陵町と靴下についての本をつくろう、と靴下だけに編まれたのが本書である<sup>※1</sup>。広陵町と靴下についての理解を深めてもらい、ひいては靴下産業のさらなる発展・飛躍につなげるべく、本書はまさに履き心地の良い上質な靴下のような、丁寧で心配りの行き届いた作りとなっている。

例えば、広陵町が奈良にあり、靴下生産量日本一である、ということを知ると、次に出てくるのは、「そういえば靴下というのはいつ頃から履かれるようになったのだろうか?」「そもそも靴下はどのようにして作られるのだろうか?」といった疑問である。これらに対し、編者は「靴下ができるまで」「日本の靴下の歴史」等の章で、過不足のない説明を試みている。この加減がじつに程良い。江戸期には武士がメリヤス編みを内職の一つとしていたこと、ルーズソックス以前にもあった流行りの靴下<sup>※2</sup>について、さらには靴下がばらけないよう左右を止めている金具の名称等もここで知ることができる<sup>※3</sup>。

また、60歳以上の町民へ靴下に関するアンケート調査を実施し、広陵町における靴下の記憶を記録することで、資料に地域史としての側面をもたせることにも成功している。

その上で、本書の要となる「靴下生産の百年」の章では、ただ過去を概観するのではなく、それらに



基づいた今後の成長に必要な要素の洗い出しに挑み、さらに「広陵町の靴下を語る」として、靴下産業に古くから携わってきた世代と、現在携わっている若手世代を、それぞれ座談会形式で語らせた。興味深いことに、新旧いずれの世代でも弱点として認識している点——「商」に弱く、情報発信が不足している——が同じであり、それが本書の編纂を要請する一因となった事をうかがわせる。かゆいところに手が届く内容構成や、靴下への愛があふれる「年表」のデザイン・装丁などは、これらの分析と考察による成果のあらわれともいえよう。

本書は、身近でありながらその成り立ちや製作工程をあまり知られずにいる靴下についての理解を深めるだけでなく、地場産業について知ってもらうこと、その発展を考える際の良い例となりうる資料である。靴下に興味のある人はもとより、地域振興に関わる人には一読を勧めたい。

- ※1 忘れられがちだが、靴下は編み物の一種である。
- ※2 その一つが表紙のアーガイル柄(上の写真)である。
- ※3 ソッパス、バックカーとも。詳しくはp.23参照のこと。

(電子情報部電子情報流通課 日野 あやこ 文都)

## 「未来の職員」＝「過去の自分」と向き合う仕事です

国立国会図書館職員の仕事は幅広く、歩むキャリアも様々です。そんな中、「国立国会図書館職員採用試験」の受験は、ほとんどの職員に共通する経験で、思い出話の定番でもあります。総務部人事課任用係は、1年を通して、その職員採用試験に関する仕事をしています。

まずは、国立国会図書館職員という仕事について広く知ってもらうため、毎年9月頃から翌年3月にかけて説明会やセミナーを開催します。東京本館や関西館だけではなく、各地の大学や予備校で開催したり、合同説明会に参加したりします。職員の生の声を聞きたい、という参加者の期待に応えるべく、自身の業務経験や仕事のやりがいについてもお話しします。

「国立国会図書館の仕事の魅力は何ですか？」

「職員としての夢や目標は何ですか？」

まぶしい若者たちからのそんな質問に答えるうち、若かりし頃の気持ちがよみがえり、仕事に対するモチベーションが高まることも。その充実感と、たくさんの人と出会う面白さがあり、毎回開催が楽しみです。

受験申込期間を経て、5月からいよいよ採用試験が始まります。受験生の緊張した面持ちに当時の自分を重ねて、「面接であんなことを言ったなあ」と気恥ずかしく振り返ったり、当時の任用係の職員の姿を思い起こして背筋を伸ばしたり。連日の試験運営でヘトヘトにもなりますが、受験生が少しでもリラックスできるよう、



第17回図書館総合展での業務説明の様子

常に笑顔で心がけてがんばります。

8月に合格者が決定して任務完了、ではありません。安心して4月を迎えてもらえるよう、職員のインタビューや入館準備のための情報などを掲載した情報誌を定期的にお送りします。その内容を企画するときには、自分の入館前の記憶を呼び起こし、頭をひねります。今年度は、入館前にも当館の活動に関わってもらおうと、「合格者アンケート」の回答と「合格体験記」の執筆に任意で協力してもらい、ホームページに公開しました。意欲的な言葉が多く並び、一緒に仕事をするのが待ち遠しくなるとともに、身の引き締まる思いがしました。

さて、この文章を書く間、「思い出す」を言い換えるため、類語辞典を何度も引きました。未来の職員候補者は、取りも直さず、昔の自分です。仕事に慣れると忘れがちな記憶と気持ちを呼び覚まして、初心に返りながら仕事をする毎日です。

(人事課任用係 Venishka)

## 中国国家図書館との 第34回業務交流

平成27年11月24日から12月1日にかけて、東京本館および関西館において標記の業務交流が行われた。今年は、中国国家図書館から、汪東波館長補佐、顧犇外文採編部主任、毛雅君業務管理処長、李翠薇参考諮問部副主任および王薇外文採編部東文図書採編グループ副研究員の5名からなる代表団が来日した。

基調報告では、両館それぞれの重点業務の達成状況、この1年の動向や今後の計画について報告され、インターネット資料の収集や書庫計画といった両館の共通する課題について意見交換が行われた。また、セッションでは、デジタル時代の障害者向けサービスおよび録音・映像資料の収集やデジタル化への取り組みに関する現状と今後の課題について、両館からの詳細な報告に続き、活発な質疑応答が行われた。



## 平成27年度国立国会 図書館長と行政・司法 各部門支部図書館長と の懇談会

平成27年12月7日、東京本館において標記の懇談会を開催した。これは、各府省庁および最高裁判所に置かれた支部図書館の充実に資するため、支部図書館長等を招いて毎年行っているものである。支部図書館および分館30館から、計44名が参加した。

国立国会図書館（中央館）から、中央館のデジタル化事業と行政・司法各部門におけるデジタル資料活用について報告を行った。

支部図書館からは、柳孝支部文部科学省図書館長が、書庫資料を対象に行ったカビ除去作業や、「文部科学省リポジトリ\*」を中心とする同館の取り組みについて、大林正典支部気象庁図書館長が、同館の沿革等の概要および電子化した資料の提供や広報活動等の現状について報告した。

また、佐野千絵氏（国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長）が、「図書館の保存環境整備に関する基礎知識」と題し、図書等の保存環境の整備に関する具体的な方法・留意事項等について紹介する特別講演を行った。

\* 電子的にデータを集積・保存・提供するデータベースシステム。



## お知らせ

### ■ 中高生のための「調べものの部屋」開室

2月2日（火）、国際子ども図書館レンガ棟2階に、中高生のための「調べものの部屋」がオープンします。

中高生の調べものに特化した資料約1万冊を開架した部屋です。「調べものの部屋」は、中高生に限らずどなたでもご利用いただけます。

中学校・高等学校の修学旅行および校外学習の場として、ぜひご活用ください。

○中高生のための「調べもの体験プログラム」の募集を開始します。

「調べものの部屋」の資料や端末を用い、短時間で図書館における調べものを体験できる、中高生のための「調べもの体験プログラム」（予約制）を4月5日（火）から開始します。申込みは、2月2日（火）から受け付けます。

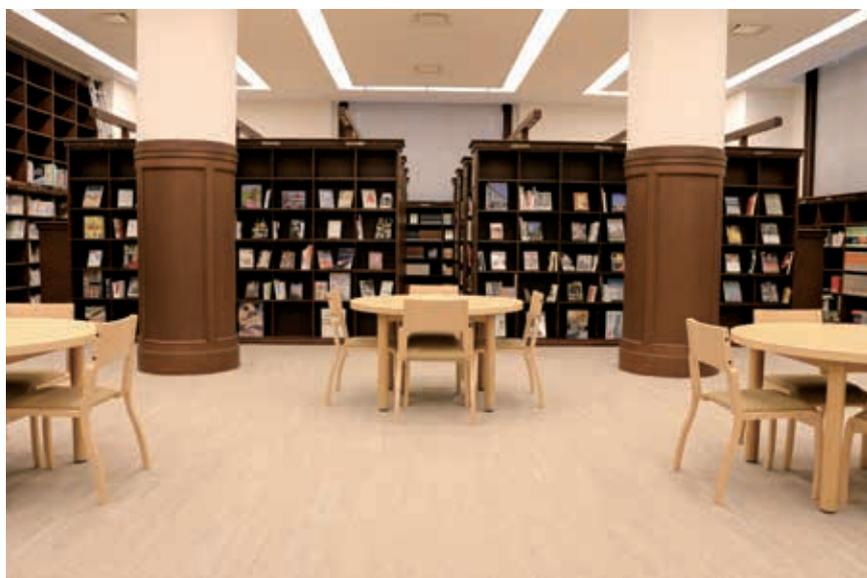
プログラムの各コースの紹介、申込方法などについては、国際子ども図書館ホームページをご覧ください。

○URL

<http://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

○問合せ先

国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課児童サービス企画係  
電話 03 (3827) 2065 (直通)





## お知らせ

### ■「児童書ギャラリー」開室

2月2日（火）、国際子ども図書館レンガ棟2階に、「児童書ギャラリー」がオープンします。

明治から現代までの日本の子どもの本の歩みをたどる常設の展示室です。平成23年2月19日（土）から平成27年10月31日（土）まで国際子ども図書館で開催した展示会「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」で紹介した児童文学史を再構成し、絵本史も充実させました。

児童文学史、絵本史のほか、作家・画家コーナー（初回は赤羽末吉）、教科書掲載作品を紹介するコーナーや研究書のコーナーも設けます。

展示する約1,000冊の資料は、直接手に取って読むことができます。

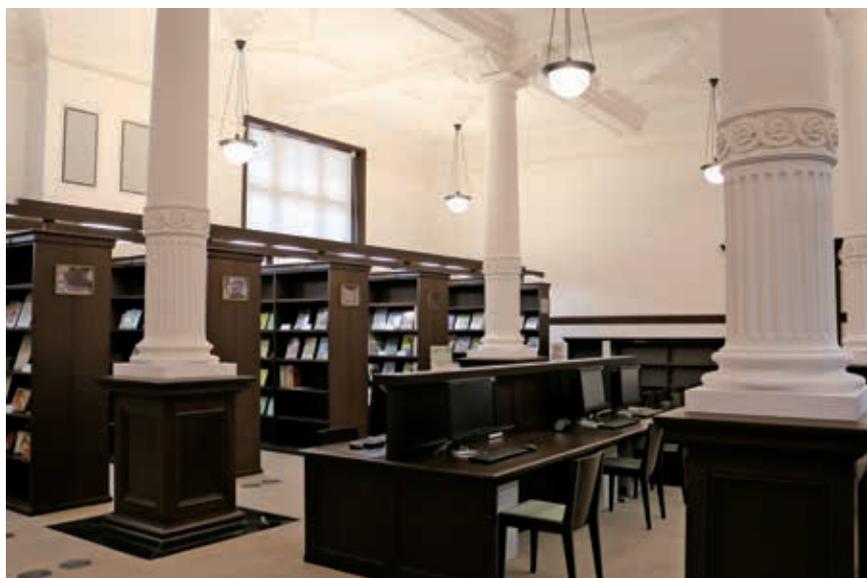
また、児童書ギャラリー内の端末からは、国立国会図書館デジタルコレクションのほか、「絵本ギャラリー」やホームページで提供中の「電子展示会」も、ご覧になれます。

子どもたちによりよい本を届けようと積み重ねられた歩みを、どうぞごゆっくりお楽しみください。

#### ○問合せ先

国立国会図書館国際子ども図書館 資料情報課展示係

電話 03 (3827) 2053 (代表)





## お知らせ

### ■ 子どものための絵本と 音楽の会

国際子ども図書館では、東京・春・音楽祭実行委員会との共催で、「子どものための絵本と音楽の会」を開催します。ピアノとコントラバスの演奏にあわせて、西内ミナミ（作）、堀内誠一（絵）の絵本『ぐるんぱのようちえん』の朗読を楽しむ会です。入場は無料です。

○日 時 3月26日（土）13：30～、15：00～（各回約30分）

○会 場 国際子ども図書館レンガ棟3階ホール

○対 象 3歳から中学生までの子どもおよびその保護者  
\*原則として子ども1名につき保護者1名

○定 員 各回100名程度

\*申込多数の場合は抽選。当落にかかわらず3月11日（金）まで  
にご連絡します。

#### ○申込方法

次の事項を明記の上、往復はがきまたはホームページの申込フォームよりお申し込みください。

①参加希望時間、②参加人数（保護者含む）、③参加者全員の氏名および子どもの年齢、④住所、⑤電話・FAX番号

\*申込フォームは東京・春・音楽祭ホームページに掲載されています。

\*申込受付期間 2月1日（月）～2月29日（月）[必着]

#### ○申込み・問合せ先

東京・春・音楽祭実行委員会「絵本と音楽の会」係

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム15F

ホームページURL <http://www.tokyo-harusai.com/>

電話 03（5205）6497

## お知らせ

### ■ 本の万華鏡（第21回） 「大豆 -粒よりマメ知識-」



1月27日から、ミニ電子展示会「本の万華鏡」第21回「大豆 -粒よりマメ知識-」の提供を開始しました。

平成28年は「国際マメ年」です。豆の優れた特性や食料安全保障の確立などについて普及啓発することを目的に、平成25年に国際連合で制定されました。今回の「本の万華鏡」では、豆の中でも特に日本人にとって身近な存在である「大豆」を取り上げます。

大豆は、古事記や日本書紀の記述に見られるほど、古くから日本の食文化に溶け込んでおり、そのまま食べるほか、味噌や醤油といった調味料や、納豆、豆腐、おから、油揚げ、湯葉といった多くの加工品としても親しまれています。また、食品としてだけではなく、節分の豆まきのような行事にも昔から欠かせない存在です。

現在では、海外でも和食ブームとともに大豆が注目されています。実は、東アジア原産の大豆がヨーロッパやアメリカ合衆国に広まったのは、江戸時代に来日したケンペルやツェンペリーの著書や、日本の難破船がアメリカ商船に救助されたことがきっかけでした。

今回の本の万華鏡では、伝統行事である節分、大豆の食文化に関するこぼなし、日本から世界へ広まっていった大豆など、様々な大豆のマメ知識をご紹介します。大豆ミートを使用した料理に挑戦したコラムもありますので、ぜひご覧ください。

○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/21/>



狂言「節分」の絵  
阪巻耕漁画「節分 謡曲狂言」  
『風俗画報』442号，東陽堂，  
1913.2



妖怪「豆腐小僧」の絵  
北尾政美『天怪着到牒』2巻，  
天明8（1788）



『日本植物誌』の著者・ツェンペリー（ツンベルク）の肖像  
『ツンベルグ日本紀行』奥川  
書房，1941

## お知らせ

### ■ 関西館小展示

(第19回)

#### 「おそれと祈り

—まじないのかたち—



『妹の力』柳田国男 著 創元社、  
昭和17 4刷  
【請求記号 388.1-Y53-13 イウ】



『起上小法師画集、第1-12集』  
川崎巨泉 画 木戸忠太郎 編・刊、  
大正13-14  
【請求記号 414-20】

第19回の関西館小展示は「おそれと祈り—まじないのかたち—」と題して、人のおそれや祈りが作り出したものに焦点を当てました。人びとは何をおそれ、どのように祈りをささげてきたのか。宗教教義とは少し離れた、絵馬、お守り、お札、呪文、神託、禁忌、生贄、人柱、都市伝説などに関する資料を約100点展示します。

- 開催期間 2月18日(木)～3月15日(火)  
(日曜日を除く)
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 地下1階閲覧室
- 入 場 無料

また、関連イベントとして、講演会を開催します。奮ってご参加ください。

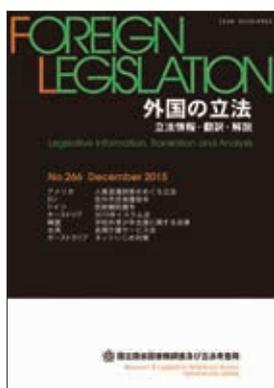
- 演 題 おそれと祈り—魔除け・厄除けの民俗を中心に—
- 講 師 関沢 まゆみ 氏  
(国立歴史民俗博物館研究部教授)
- 概 要 京都の祇園祭で神社から配られる<sup>ちまき</sup>粽や蘇民将来の札は厄除けや魔除けの力があると思われています。疫病や災害、死への不安とおそれが、それを予防するためのお守りやお札という形をとって伝承されているのです。しかし、災厄や不運が続くと何かの「さわり」とか「祟り」とかかっておそれ、人びとは神仏に祈ってきました。そこには、A:現実世界で起こることは、B:霊的世界に原因があるのだと考える人間の傾向がうかがえます。このA、B二つの世界とその境界について、人びとがどのように考えてきたのか、民俗学の視点からお話しします。
- 日 時 3月5日(土) 14:00～16:00
- 会 場 関西館 第1研修室
- 定 員 70名 ※定員に達し次第受付を終了します。
- 入 場 無料
- 申込方法 次の事項を記載の上、電子メールまたはFAXでお申込みください。  
①件名「小展示講演会申込み」、②氏名(よみがな)、③電話番号(日中のご連絡先)、④FAX番号(FAXでお申込みの場合のみ)  
電子メール k-tenji@ndl.go.jp FAX 0774(94)9106
- 問合せ先 国立国会図書館 関西館 総務課 電話 0774(98)1225(直通)



## お知らせ

### ■ 新刊案内

#### 国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第266号 A4 183頁

季刊 1,800円(税別) 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-780-1)

#### <主要立法(翻訳・解説)>

アメリカにおける人質返還政策の見直しと関連立法—政策見直し報告と大統領令を中心に—

在外EU市民の保護に関する指令

ドイツ放射線防護令

オーストリアの2015年イスラム法—国家によるイスラム系宗教団体の管理強化—

韓国の学校外青少年支援に関する法律

台湾の長期介護サービス法

オーストラリアのネットいじめ対策—児童ネット安全コミッショナーの設置—

レファレンス 779号 A4 153頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会

ドイツの交通インフラ及び地域公共交通の財源問題—利用者負担をめぐって—  
小特集「原子力政策の中長期的課題」<緒言>

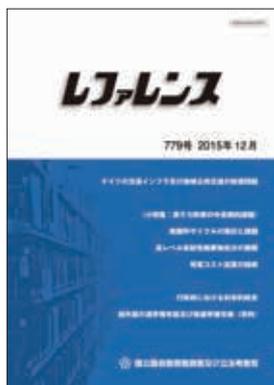
核燃料サイクルの現状と課題—再処理・プルサーマルをめぐる問題を中心に—

高レベル放射性廃棄物処分の課題—使用済燃料・ガラス固化体の地層処分—

発電コスト試算の経緯—原子力発電の経済性をめぐる議論—

行政府における科学的助言—英国と米国の科学技術顧問—

諸外国の選挙権年齢及び被選挙権年齢(資料)



カレントアウェアネス 326号 A4 30頁 季刊 400円(税別) 発売 日本図書館協会

事例報告:北米の大学における日本古典籍の電子化事業

オープンなナレッジベースの進展とその背景

#### <動向レビュー>

Library Services Platformの現在

これからの学術情報システムとNACSIS-CAT/ILL

欧州の文化遺産を統合するEuropeana

米国における放送アーカイブの現状



入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

## C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>  
Nezumi Kozo in “*Oshioki reiruishū*” (law reports by the Edo shogunate),  
etc.: his image and true self
- 04 Travel writing on world libraries: Berlin State Library and German National  
Library in Leipzig
- 12 Books published by Chinese who lived in Japan during the Occupation
- 18 Current status and use of doctoral dissertations
- 24 Answers to questions about the Digitized Contents Transmission Service  
for Libraries : Part Two of Two
- 28 <Books not commercially available>  
○ *Kōryōmachi no kutsushita hyakunenshi*
- 29 <Tidbits of information on NDL>  
Our job is to face future NDL staff who reflect  
my old self
- 30 <NDL NEWS>  
○ 34th mutual visit program with the National  
Library of China  
○ Annual meeting between the Librarian of the  
NDL and the Directors of the Branch Libraries  
in the Executive and Judicial Branches of the  
Government FY2015
- 31 <Announcements>  
○ Opening of the Teens' Research Room  
○ Opening of the Gallery of Children's Literature  
○ Spring event of the International Library of  
Children's Literature “Picture books and music  
for children”  
○ Kaleidoscope of Books (21) “Soy beans— bits  
of bean knowledge”  
○ Small exhibition in the Kansai-kan (19) Awe  
and prayer - shape of incantation-  
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 28 年 2 月号 (No.658)

平成 28 年 2 月 1 日 発行

発行所 国立国会図書館

編集者 小寺 正一  
責任者

印刷所 株式会社 正文社印刷所

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
F A X 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『百々世草 第1巻』から  
神坂雪佳 著 山田芸艸堂 明治42（1909）年  
1冊 31cm  
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849782/25>  
(モノクロ画像)

## 国立国会図書館月報

平成28年2月1日発行 (毎月1回1日発行)  
(2月号通巻658号)